

おける野外調査はごく短期間であったため、今後異なる時期に同島にける調査を行うことで、アマミカバイロハムシやミヤモトホソヒラタハムシなど、奄美大島と共通の地域固有種の発見が期待される。

引用文献

- Beenen, R. & C.-F. Lee, 2010. Two new *Erranoides* species from P. R. China and Taiwan (Coleoptera: Chrysomelidae: Galerucinae). *Genus*, 21: 257–264.
- Chûjô, 1935. Chrysomelidae of Loo-Choo Archipelago (I). *Transactions, Natural History Society of Formosa, Taihoku*, 25: 69–89.
- 今坂正一・祝 輝明, 2007. 喜界島で 2007 年に採集した甲虫. *Satsuma, Kagoshima*, (137): 119–129.
- Kimoto, S., 1974. On some infraspecific variation of Chrysomelidae beetles (Coleoptera) occurring in the Ryukyu archipelago. *Kontyû*, Tokyo, 42: 270–282.
- Kimoto, S., 2004. New or little known Chrysomelidae (Coleoptera) from Nepal, Bhutan and the northern territories of India subcontinent. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告, A 類, 自然史, (2): 47–63.
- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539 pp. 東海大学出版, 東京.
- 喜屋武良好, 1968. 明治末期と大正時代の沖縄における害虫事情. *沖縄農業*, 7: 45–47.
- 小濱継雄, 2010. 沖縄県におけるサツマイモの食葉性害虫. *沖縄県農業研究センター研究報告*, (4): 27–31.
- Lee, C.-F., 2014. Review of the genus *Nonarthra* Baly (Coleoptera: Chrysomelidae: Galerucinae: Alticini) from Taiwan and Japan, with descriptions of two new species. *Japanese Journal of systematic Entomology*, Matsuyama, 20: 201–63.
- 中峯浩司, 2006. 奄美群島請島 2004 年 9 月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (25): 63–67.
- 水田 拓, 2016. 奄美—その自然と概要. Pp. 1–17, 水田 拓 (編著), 奄美群島の自然史学 亜熱帯島嶼の生物多様性. 388 pp. 東海大学出版部, 東京.

- 重藤裕彬・小島弘昭, 2018. 奄美群島請島未記録のハムシ科 4 種. *さやばねニューシリーズ*, (31): 12–13.
- 重藤裕彬・吉武 啓, 2018a. 奄美群島請島において冬季に採集されたハムシ類. *さやばねニューシリーズ*, (29): 17–19.
- 重藤裕彬・吉武 啓, 2018b. 奄美群島与路島において冬季に採集されたハムシ類. *月刊むし*, (568): 34–37.
- Suenaga, H., C.-F. Lee, & Bezdek, J., 2017. Two new species of the genus *Menippus* Clark (Coleoptera: Chrysomelidae: Galerucinae) from islands of Ryukyu-rettô, Japan, and redescription of *M. issikii* (Chûjô). *Entomologische Blätter und Coleoptera*, 113: 231–240.
- Suenaga, H., H. Shigetoh, & H. Yoshitake, 2018. Distribution records of leaf beetles (Coleoptera, Chrysomelidae) from Tokunoshima Is., the Amami Is., central Ryukyus, southwestern Japan (I). *Elytra, New Series*, Tokyo, 8: 103–113.
- 滝沢春雄, 2006. 日本産ハムシ科生態覚書 (1). *神奈川虫報*, (156): 1–8.
- 滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書 (2). *神奈川虫報*, (157): 17–26.
- 滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書 (3). *神奈川虫報*, (158): 37–48.
- 滝沢春雄, 2009. 日本産ハムシ科生態覚書 (4). *神奈川虫報*, (168): 1–11.
- 滝沢春雄, 2011. 日本産ハムシ科生態覚書 (5). *神奈川虫報*, (173): 35–51.
- 滝沢春雄, 2012. 日本産ハムシ科生態覚書 (6). *神奈川虫報*, (177): 33–51.
- 滝沢春雄, 2013. 日本産ハムシ科生態覚書 (7). *神奈川虫報*, (179): 17–33.
- 滝沢春雄, 2014. 日本産ハムシ科生態覚書 (8). *神奈川虫報*, (182): 37–46.

(2019 年 1 月 17 日受領, 2019 年 5 月 10 日受理)

【短報】群馬県および茨城県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997 は、近年、国内において分布が確認された種である(稲畑, 2016)。同属のマルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882 と記録が混同されていた事例も報告されていることから(渡部, 2016)、各地において注目が集まった結果、本州中部以西および南西諸島から多数の追加記録が報告され(渡部ほか, 2016; 渡部, 2016; 渡部・保科, 2016; 戸田, 2017; 吉村・渡部, 2017; 末長ほか, 2017; 仲田, 2018 など)、現時点における本種の国内分布は埼玉県が東限とされている(亀澤・渡部, 2018)。筆者らはこれまで記録のなかった群馬県および茨城県において本種を確認したので報告する。なお、標本は佐野と渡部がそれぞれ保管している。

2 ♂♂, 群馬県板倉町海老瀬, 27. V. 2011, 佐野採集。

1 ♂ 1 ♀, 茨城県潮来市釜谷中池, 6. IX. 2017, 新中・内田採集; 1 ♂, 同所, 23. VIII. 2018, 内田採集(図 1)。

群馬県の生息地は、アシやマコモ、ハス、ヒシ等が繁茂する比較的面積の広い池で



図 1. 茨城県産サメハダマルケシゲンゴロウ。

あった(図2)。同所的にコツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873, ホソマルチビゲンゴロウ *Leiodytes miyamotoi* (Nakane, 1990), ワタラセツブゲンゴロウ *Laccophilus dikinohaseus* Kamite, Hikida & Satô, 2005 等のゲンゴロウ類が見られたが、サメハダマルケシゲンゴロウの個体数は他種に比べて少なかった。2011年5月28日および同年6月6日の調査時には本種が確認されたものの、それ以降、原因不明の水質悪化および水生植物の衰退が著しく、2013年9月、2015年12月、2016年5月の各調査では本種だけでなくホソマルチビゲンゴロウやワタラセツブゲンゴロウも確認できなかった。なお、佐野(2016)が文中に記述したマルケシゲンゴロウは今回報告したサメハダマルケシゲンゴロウである。

茨城県の生息地は谷戸の奥に位置しており、アシやマコモ、ヒシ等が繁茂する比較的面積の広い池である点が群馬県の生息地に類似しているが、水生植物の遷移が進行しているため開放水面は少なく、林に囲まれた暗い環境である(図3)。当地



図2. 群馬県の生息地。



図3. 茨城県の生息地。

では、コツブゲンゴロウやキボシチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky, 1859) が同所的に見られた(新中・内田, 2017)。なお、茨城県潮来市釜谷の記録は国内における東限記録となる。

引用文献

- 稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.
- 亀澤 洋・渡部晃平, 2018. 埼玉県からのサメハダマルケシゲンゴロウの記録とマルケシゲンゴロウの記録抹消. 寄せ蛾記, (170): 39-40.
- 仲田彰男, 2018. 浜松市の旧養鰻池で採集した水生昆虫. 駿河の昆虫, (262): 7172-7175.
- 新中健斗・内田大貴, 2017. 茨城県潮来市のため池で採集されたキボシチビコツブゲンゴロウの記録. 月刊むし, (562): 23.
- 佐野真吾, 2016. 群馬県におけるホソマルチビゲンゴロウの記録. 月刊むし, (540): 54.
- 末長晴輝・渡部晃平・山地 治, 2017. 岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (28): 51-52.
- 戸田尚希, 2017. サメハダマルケシゲンゴロウが愛知県にも分布. 佳香蝶, 69 (271): 47-48.
- 渡部晃平, 2016. 石川県におけるマルケシゲンゴロウ属の分布. さやばねニューシリーズ, (24): 53-56.
- 渡部晃平・保科英人, 2016. 福井県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの記録と生息地保全に向けた対応. さやばねニューシリーズ, (24): 33-35.
- 渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15-16.
- 吉村優杏・渡部晃平, 2017. 小浜島におけるマルケシゲンゴロウ属2種の初記録. さやばねニューシリーズ, (27): 27-28.

- (佐野真吾 239-0813 横須賀市鴨居4-1120
観音崎自然博物館)
- (内田大貴 311-2402 潮来市大生1375 茨城大学
広域水圏環境科学教育研究センター魚類学研究室)
- (新中健斗 305-8571 つくば市天王台1-1-1
筑波大学生命環境学群生物学類)
- (渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3
石川県ふれあい昆虫館)